



特集

訪問インタビュー

はねだ こうじ
羽田 浩二 大使

【略歴】

- 1979年 4月 外務省入省
北米局、経済局、外務大臣秘書官事務取扱、フィリピン('82~84)、
連合王国('90~93)、インド('94~96)の各大使館勤務を歴任
- 1996年 7月 経済局サービス貿易室長
- 1998年 2月 北米局北米第二課長
- 2000年 4月 北米局北米第一課長
- 2001年11月 国際連合日本政府代表部政務公使(ニューヨーク)
- 2007年 8月 北米局審議官
- 2009年 7月 総合外交政策局審議官(国連担当大使)
- 2010年 8月 内閣府国際平和協力本部事務局長
- 2012年10月 駐イラン特命全権大使
- 2015年10月 国際貿易・経済担当大使(日 EU EPA 交渉担当)
- 2016年 3月 政府代表(自由貿易・経済連携協定交渉担当)
- 2017年 9月 駐フィリピン特命全権大使

【学歴】

- 1979年 3月 東京大学法学部卒業





羽田大使は、2017年10月にフィリピンに着任されて以降、日本とフィリピンの友好親善の推進のため、経済協力や文化交流等をはじめとした各分野で、両国間の関係強化のために活動されています。

この度、まぶはい編集委員が在フィリピン日本国大使館を訪問し、羽田大使にインタビューさせていただきました。着任されてからの約一年を振り返ってみてのお話や、今現在考えていらっしゃる事、今後の展望について伺いしてみました。



編集委員:ご着任から約一年になりますが、ご公務を振り返っていかがでしょうか？

本当に色々忙しくさせてもらっていますが、それは日本とフィリピンの関係が良好であることの表れであり、嬉しく思っています。ドゥテルテ大統領は常々フィリピンと日本の二国間関係は黄金時代を迎えていると話されており、首脳レベルでも本当に良い関係を築いています。このような時期に大使として戻ってきて仕事をするのができ、非常に良かったと思っています。

編集委員:8月慰霊祭に行かれたと思います。ご出席されてどのように感じられましたか？

フィリピンは大変な激戦地で日本兵が50万人以上、フィリピンの方も100万人以上が亡くなっています。その歴史を忘れずに、年に一回日本の英霊に哀悼の誠を捧げるとともに、フィリピンで亡くなった方々にきちんと我々の慰霊の想いを表すというのは非常に重要なことだと思っています。毎年非常に多くの方に参列していただき、また日本からもご遺族の方々に参列していただいております。

編集委員:ピント・アート・ミュージアム (Pinto Art Museum) に奥様と行かれたと思いますがいかがでしたか？

ピント美術館にはできるだけ早く行きたいと思っていました。今年の6月に東京・代官山のギャラリーで、フィリピンの50数名



のアーティストの作品の展覧会、「PINTOKYO」が盛大に開かれました。ちょうど会議のため日本に帰国していたので駆けつけて、館長のクワンサンをはじめ色々なフィリピンのアーティストの方々にもお会いでき、非常に嬉しく思っています。これほどの規模でフィリピンのアーティストが海外で展覧会を開くのは、ニューヨークについて東京が二回目ということで、大変素晴らしい行事となりました。そういうこともあり、是非同美術館にも早く来てほしいとの館長の要望もあったため、このたび訪問いたしました。残念ながら雨の日でしたが非常に多くの良い作品を見ることができ、感銘を受けました。私は文化交流を重視しており、もし同美術館と日本との間でコラボレーションができることがないか、館長ともよく相談しながらやっていきたいと思っています。

今度大使公邸に、ベンカブさんという著名なナショナルアーティスト(編集注:Benedicto Cabrera、日本でいう人間国宝の方)をお招きすることとなっているので、色々な芸術談義をするのが楽しみです。

編集委員: 今までの海外での生活で、印象深かった国はどちらでしょうか?

訪問したことのある国は随分多いですが、生活したことのある国は今まで5か国です。我々の仕事では任地を好きになることが非常に重要なところ、幸い5か国いずれの国も好きになり他では得られないような良い経験をすることができました。

一番長かったのはアメリカで、外務省に入ってから留学研修



で2年、またニューヨークの国連代表部に5年勤務しました。アメリカの国内はほとんどの州を回った他、政治、経済、安全保障、その他のさまざまな分野でアメリカに関わる仕事が長かったので強い印象をもっています。

アメリカは国立公園のようなスケールの大きい自然がある一方、ニューヨークのような大都会があり、多様性に富んだ地域を旅行できたことは印象深いです。

編集委員:大使として仕事の上で心がけていらっしゃることはありますか？

フィリピンと日本との関係は、先ほど申し上げたとおり黄金時代を迎えており極めて良好であり、これを少しでもさらに前進させたいと思っています。日本企業の活動支援や、在留邦人の方々に安心して過ごしてもらえるような環境づくりを目指しています。最も取り組みたいことは、より多くの若者が日本からフィリピンへ、フィリピンから日本へ行き交うことを推進することです。過去5年間でフィリピンから日本を訪れる方の人数は約5倍になっています。交流を更に活発にするため、例えばフィリピンの有名な俳優さんを主人公にした映画やドラマなどは効果的だと思います。

例えば、最近当地でヒットしたフィリピン映画「Kita Kita」は北海道を舞台にした映画ですが、雪のシーンなどを見てロケ地を訪れるフィリピン人が増えているようです。

今年もジャパン・フィルム・フェスティバル(通称 EIGASAI)が開催され、映画「ちはやふる」をこちらで初めて観る機会がありま



したが、フィリピン人の反応の良さに驚かされました。同映画を制作した小泉監督にお会いした際に、是非フィリピンを舞台にした映画を制作してほしいとお願いしました。映画が公開されれば、日本からフィリピンへ若い人がロケ地を訪れるチャンスが増えることが期待されます。小泉監督は「わかりました！」と喜んでくださり、直後に家族旅行でセブを訪問されたようです。このような草の根レベルでの交流を強化するための仕掛けや、プロモーションができればと考えています。

日本とフィリピンのジャズ交流のお話がありましたが、ジャズピアニストの国府弘子さんは今年3月に国際交流基金のイベントで来られてからフィリピンを大変気に入られて、夏休みに当地を再訪問されました。その際公邸でジャズコンサートを行っていただきましたが、地元の著名人の飛び入りもあり大好評でした。このように少しずつでも文化交流を推進できれば幸いです。

編集委員：新聞やテレビのニュースなどで、直接的なご発言が話題になっているドウテルテ大統領ですが、謙虚なお人柄といった声も聞かれます。実際にお会いになられたドウテルテ大統領のご印象はいかがでしょう？

非常に親日的で気さくな方です。日本とゆかりのあるダバオの市長を20年以上務められました。日本はミンダナオでの経済協力を集中的に支援してきており、ミンダナオの発展に非常に貢献していることを良くご存じですので、日本からのお客様が来られると、最初に謝意表明から始められます。そういう意味では、私たちは大変仕事がしやすいと思っています。

先週もお会いしたのですが、海上自衛隊のヘリコプターを搭

載した護衛艦がスービックに寄港した際、大統領にもお越しいただきました。その時も非常に気さくで飾り気もなく、服装もジャンパーを羽織ってこられ、親しみを感じさせるものでした。他方、政治家としての信条・考え方に関しては芯はしっかりとしたものをお持ちであり、そのことはお話しをすればわかります。

また、フィリピン人にとっても人気があり、人を惹きつける魅力を持っている方だと思います。私がお話を一番感じたのは、昨年秋に大統領が日本を訪問されたときです。ちょうど台風が東京を直撃していたので、大統領の専用機の時間を遅らせてもらい、羽田空港に到着したのが朝3時で、宿舎の帝国ホテルに着いたのは朝4時でしたが、ホテルの正面にある日比谷公園に大変多くのフィリピン人が旗を持って大歓迎していたのには驚きました。

就任から2年たった今でも8割近い支持率があり、本当に人気のある大統領であると思います。

編集委員：一時帰国された時、真っ先になさりたい事はございますか？

皆さま方と同じです。マニラ首都圏には、日本食店は恐らく500軒程ありますが、日本で昔から食べ慣れた物、馴染みのお店の物は食べたいと思います。また温泉もなつかしいです。

読書も好きなのですが、マニラには日本人向けの書店がないので、日本に帰った際には書店で本をながめることも多いです。今は電子書籍などでも読めますが、電子書籍になっていない作家の方も少なくないので、書店に行くことはしばしばです。



編集委員：海外生活のアドバイスをお聞かせください。

まずは安全と健康が一番重要だと思います。この観点から大使館でも、ホームページやたびレジで情報を発信させていただいております。フィリピンは基本的には安全な場所ですが、情報を活用して安心して生活していただきたいと思っています。

健康面では息抜きが重要だと思います。まずは自分の住んでいる場所を良く認識し、自分の住んでいる場所を好きになることが大切だと思います。

今の日本はなんでも揃っていて便利に生活出来ますが、外国に行った時に日本と同じものを求めても手に入らないことも多く、これも「ない」というよりは、その国の良いところに着眼して、これも「ある」と考えたほうが外国での生活が楽しくなると思います。

フィリピンでは日本のテレビ番組も見られますし、日本のものも多く手に入りますので、日本とあまり変わらない生活か、むしろ場合によってはそれ以上の生活も送れるかと思います。世界には必ずしもそういう国ばかりではありませんから、勤務先ではその国ならではのものを見つけてポジティブシンキングで生活していくことが大事なのではないかと思います。

また、外国に住んでいると日本で生活する以上に家族の絆が強くなってくることがもあり、家族を大切にすることが非常に重要だと思います。

**編集委員：日本に持ち帰りたいフィリピンのお気に入りの事、物
はございますか？**



良いおみやげは色々あると思いますが、物ではないのですが、フィリピンの方が家族の絆を大切にしていることは素晴らしいと思っています。一般の家庭から富裕層まで、週末定期的におじいさんおばあさんの家に親族で集まって食事をしたり、年に数回、親族や友人などと団体旅行をしたりする話を良く聞きます。昔の日本でも見られたかもしれませんが、最近では核家族化が進み、皆散り散りになってなかなか集まれなくなっていることは残念です。フィリピン人の家族の絆を羨ましく思うことがあります。

編集委員：最後に、日本人会の会員の皆様にメッセージをお願いします。

極めて良好な日比関係ではありますが、在留邦人の皆様方、諸先輩、あるいは当地の日系人の方々の普段からの様々な活動が全体としてあいまって今の関係があるのだと思います。引き続き皆さま方と一緒に日本とフィリピンの良い関係をさらに発展させていけたらと思っています。また、大使館としても皆さまが安心して生活していけるよう必要な情報はできるだけホームページやたびレジで提供していきたいと思っています。

編集委員：本日はお忙しい中、ありがとうございました。

終始なごやかな雰囲気インタビューが終了！

分りやすくお優しい語り口でお話して下さる羽田大使に編集委員一同、ファンになってしまいました。





【ご参考】

「在留届の提出はお済みですか？」在フィリピン大使館

http://www.ph.emb-japan.go.jp/itpr_ja/00_000257.html

「いつでもどこでも大使館(総領事館)」在フィリピン大使館
在留邦人向けメールマガジン配信サービス

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/mailmz/menu?emb=ph>

「たびレジに登録する」外務省 海外安全情報配信サービス

<https://www.ezairyu.mofa.go.jp/index.html>

